

「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前

船寄港地・船主集落」

交易と信仰の玄関口「多度津」

①旧塩田家土蔵

北前船で財を成した廻船問屋・多度津七福神「塩田家（煙草屋）」が北前船の積み荷を集積した土蔵。建造当時の大振り桁梁がそのまま残っている。



②合田家住宅

北前船で財を成した廻船問屋・多度津七福神「合田家（島屋）」の住宅。主屋が明治期に建てられたものである。その当時のトレンドを次々と採用していくため、和洋折衷の建築様式である。レンガ式の倉庫やステンドグラスなども当時の物が残る



③旧朝日屋旅館（竹田家住宅）

金毘羅参詣で多度津港に立ち寄った参拝客の泊った旧旅館。現在も築造当初の間取り、表構えが残る。



④金刀比羅神社（須賀の金毘羅さん）



北前船航路を利用した金毘羅参詣の起点となった神社の一つ。祭神は大国主命、通称「須賀の金毘羅さん」と呼ばれる。創建時は不明だが少なくとも多度津藩陣屋が構築されたときには存在していた。琴平町の本宮の例大祭に使用される。塩水と海藻を準備する汐汲藻刈神事を行う場所でもある。現在は社内において

10基の金毘羅燈籠が移設されている。鳥居は天保11年建立であり、多度津藩陣屋が構築された際に移設された時期と重なる。

⑤巖島神社



多度津山桃陵公園の東入口の斜面にある神社。北前船の航海安全を祈願するために設置された神社。海運・商業の神様として江戸時代後期頃に整備されたと考えられる。

⑥白鬚神社

祭神は猿田彦命。創建時は不明。北前船航路を利用した金毘羅参詣の起点となった神社の一つ。安永7年の燈籠があり町内では最古級のものになる。



⑦恵比須神社

祭神は事代主神。創建時は不明。南側にはもともと多度津藩の魚役所、北側には魚市場があった。金毘羅燈籠が2基移設されている。北前船の商人たちが、航海の安全を祈願して建立した神社。



⑧金毘羅鳥居（多度津鳥居）



町指定有形（建造物）寛政6（1794）年創建の北前船航路によって栄えた金毘羅街道、一の鳥居。

建立者は、雲州松江の金毘羅講中の人たちであり、その中に雲州松江藩松平公のお抱え力士雷電為右エ門の名が刻まれている。

⑨金毘羅燈籠群

北前船航路によって栄えた金毘羅街道周辺に設置された常夜燈（22基）。道標兼常夜灯の役割を果たすもので、多くのものが町外の人間が出資者となっていることから、金毘羅参りの際に多度津港を利用した人間が全国各地に広がり示し、町並みを作り上げてきた重要な物件であるといえる。



⑩多度津湛甫

北前船を停泊させるために整備された港湾施設。天保9年時の多度津港湛甫の改修の際に構築されたもので、基本的に河川による砂の堆積地上に構築された町域が氾濫によって、また港湾地区が潮流や波浪等によってなどで侵食される事を防ぐために造られたもの、あるいは街路を構築するための地固めとして設置されたと考えられる。部分的に古い段階のものが残っている。



⑪東浜・西浜・本通の町並み

北前船によって繁栄した金毘羅街道沿いの町並み。北前船船主、廻船問屋の町屋群とそれに関連する諸施設。伝統的建造物群



⑫多度津町立資料館北前船関連資料群

廻船業「日向屋（ひゅうがや）」が奉納した弁才船模型の他、関連文書や往時の多度津の図絵など北前船関連資料など資料館所蔵の資料群。対象になっているものは、高見八幡宮奉納模型和船（県指定有形民俗）・北前船関係古文書（町指定）・金毘羅参詣絵図などである。

